

アジアアクセス・ジャパン レポート 2024年4月号

# Asian Access Japan REPORT

ごあいさつ

アジアアクセス・ジャパン (A2J) 理事長 小平 牧生

今日も各地で教会の形成と増殖のために労しておられる皆さま、またその働きを祈りとささげものをもって支えてくださっている皆さま。アジアアクセスの仲間として、皆さまとともに歩むことができますことを感謝いたします。特に能登半島地震の被災地にある教会と愛する皆様の上に、主の豊かな助けがありますように祈ります。私たちアジアアクセスは皆さまとともに歩んでいきたいと願っています。

さて、ご承知のようにアジアアクセスの働きはアジアからアフリカへと広がっており、それにもなあってアジアアクセスはA3と名称を新しくしています。また、私たち日本においても「リーダーシップ・リニューアル」に続いて、この数年は「現地化」に取り組んでいます。

この「現地化」のビジョンに沿って、これまで宣教師の方々によって構成されていた「宗教法人アジアアクセス」の責任役員会を日本の牧師と宣教師とによる構成とすることになりました。そして、従来のアジアアクセス・ジャパン理事会と一つになるかたちで、これからのミニストリーの運営を行っていくこととなります。この節目に、これまで長年ご指導くださった池田博先生、大友幸一先生、益田良一先生、松本雅弘先生、千田次郎先生が理事を退任され、新たに大友幸証先生、秦真道果先生が加わってくださいました。先生方のご奉仕に心より感謝を申し上げます。また、続いて新たな世代のリーダーまたスタッフが加えられていくことを目指していますので、覚えてお祈りください。

あわせて長年にわたって埼玉県所沢市の事務所として使用していたアジアアクセス所有のビルを売却し、埼玉県戸田市内に事務所を長期賃借して法人事務所の移転手続きを行っているところです。私たちに委ねられた資源を有効に用いることができますように、またすべての必要が満たされますようにお祈りください。

日本は終わりのない少子高齢化の時代に突入していますが、私たちはビジョンに掲げられたように「世界と日本の福音化のために、指導者を力づけ整えて、健全な教会の成長および増殖を促し、全国規模の教会増殖運動が起こされることを目指し」ていきます。同じ夢を見て、ともに歩んでいきましょう。感謝しつつご報告します。

# 働きの報告

## ①アジアアクセス・ジャパン教会指導者研修

アジアアクセス・ジャパン教会指導者研修も、2023年4月から第二期生11名の学びが祝福のうちに継続されております。

教会指導者研修のコンセプトは、かつてのJCGI研修が教会の成長に軸があったとするならば、教会の指導者の成長に軸を置いた学習共同体を形成し、日本の福音化に用いられる指導者を育てることです。

特に、この学習共同体としての共通の目的意識は、世界の巨大な未伝部族である日本人が、未伝部族でなくなるために主の弟子が人口2%に達していくに、どう刷新される必要があるのかというものです。

第二期生として共に学ばれている先生方とバルナバ役としてご奉仕くださっている先生方は以下の通りです。

- ①豊島司先生 (クライストコミュニティ) 緒方賢一先生
- ②田所滋郎先生 (下北沢グレースガーデン) 諸藤栄一先生
- ③市川牧先生 (アッセンブリー大阪池田) 黄金井尚美先生
- ④御所園士先生 (水俣福音キリスト教会) 森英樹先生
- ⑤山下裕平先生 (JEC堺シオン福音教会) 大橋謙一先生
- ⑥深谷与那人先生 (日本キリスト教団京都復興教会) 角本尚彦先生
- ⑦吉田共歩先生 (ラムチャーチ北海道) 菅原亮先生
- ⑧佐藤賢二先生 (本郷台キリスト教会) 澤村信蔵先生
- ⑨飯田結樹先生 (札幌ガーデンチャーチ) 豊田信行先生
- ⑩江渕篤先生 (日本キャンパスクルセード) 下沢賢治先生
- ⑪尾崎豪先生 (日本ホーリネス教団) 滝田新二先生

ここまで、オンラインセッション1「自分の賜物と召しを明確にする」(高澤健師)を通して、自分自身の現在位置と賜物と召しを明確にする取り組みをし、オンラインセッション2「教会の過去、現在、未来」(佐藤彰師)教会のタイムラインを知ること、教会に与えられている霊的遺産を知り、神様の教会に対する期待をつかむ学びをしました。

対面セッションで、教会増殖(講師播義也)、サーバントリーダーシップについて(豊田信行師)、首都圏における教会開拓の実践(青柳聖真師)などのリソースパーソンからの学びを通して、学習共同体としてそれぞれの講師がいるところへ出向いて行って、その文脈を体験しながら学習することで、単なる知識的な学びではなく、文脈を知ること、自分の文脈にどのように適用するのか、さらには日本のさまざまな文脈における宣教課題について視座を培う機会となっています。

今後の研修の予定として、11月のアジアアクセス・ジャパン大会に講師として来られた、アンカンヒ師との出会いから、5月にインドにおける教会増殖の現場に行き世界宣教に貢献する機会として遣わされる予定です。7月には北海道へ6日間行き、渡島半島の教会未設置市町村で実際に平安の子を探す取り組みをし、その後は札幌、旭川の教会で研修をする予定です。

11月25-27日に予定されている、アジアアクセス・ジャパン大会(場所未定)では、学習共同体として学んだことの報告をする機会を持たせていただきたいと思いますので、ぜひ今からご予定くださればと思います。



## ②U30牧師研修

第四期U30牧師研修が始まります！

U30牧師研修は20~30代の先生方にフォーカスした研修です。肩書は牧師に限らず、伝道師、宣教師、ユースパスター、宣教団体スタッフなど、ミニストリーの現場を持っているリーダーの皆さんが対象です。以下にこの研修のコンセプトを紹介したいと思います。

### ①「この世代」のリーダーのために

日本の牧師の中で20~30代の割合はわずか数% (20代は統計では1%以下) です。周りの教会でも多くは見かけないかもしれません。しかし、私たちはこの世代の皆さんにこそ注目しています。超少子高齢化の進む日本において、今まで以上に若い魂がイエス様に出会っていくことは大きな意味を持ちます。この世代のリーダーの働きはこれから10年、20年の日本に大変化を起こすインパクトを与えることができます。この研修は、「この世代」の皆さんのために用意されています。

## ②生涯にわたって豊かな実を結ぶために

また、この研修はミニストリーの現場での働きが10年未満の皆さんを対象として募集しています。この時期は、これからの働きの土台を築き、方向性を定めていくのに重要なタイミングです。そこで、この研修はBeing（霊性）とDoing（実践）の両面を、経験豊かな講師とリソースパーソンの先生方から、バランスよく学ぶことができるようにデザインされています。実践的な必要に応える研修になっています。

## ③日本に網をおろすネットワークのために

教団・教派、そして地域を超えて参加者は集まります。その交わりの中で互いに学び、励まし合うことができます。さらに、「バルナバ」と呼ばれる先輩牧師たちも研修生一人一人にサポートとしてついてくれます。研修を通して、参加者もまた日本全体に届いていくイエス様を伝える網の結び目として、豊かに整えられていきます。

まもなく申込〆切です。（4月研修スタート）  
ぜひ身近な若いリーダーにお声かけください！

## ③山形宣教ネットワーク

東日本大震災で立ち上がった宮城宣教ネットワークから、次の宣教ネットワークを生み出す取り組みとして、2022年7月から山形宣教ネットワークが始まりました。3ヶ月に一回程度集まりを重ねておりネットワーク開始から2年が経とうとしております。現在の参加教会は以下の通り。

蔵王キリスト教会（辻和希師先生）、山形恵みキリスト教会（吉持尽主先生）、こひつじキリスト教会成沢チャペル（千葉顕一先生）、鈴川キリスト教会（川崎廣先生）、上山聖書バプテスト教会伊藤一寿先生、恵泉キリスト教会米沢チャペル（金野正義先生）、山形南部教会（岡撰也・好美先生）



このネットワークのバルナバ役として、大友幸一先生（塩釜聖書バプテスト教会）がご奉仕くださいます。

このネットワークにA3ミニストリーパートナーの宣教師が派遣されております。

蔵王キリスト教会へ小山宣教師一家、山形南部教会へケイシー宣教師、恵泉米沢ヘティア宣教師、そしてこの春から山形恵みキリスト教会へハナ宣教師が派遣予定です。今後、山形県内にある教会未設置地へどのように宣教を展開していけるかなど計画し実行していければと願っております。

## ④宣教師の働き

アジアアクセス・ジャパンで奉仕している宣教師チームからのご挨拶です。

A2Jを通して、神様が日本で行っておられることに協力できることを感謝しています。私たちのチームは何をしているのかと聞かれると、「A3宣教師は弟子を増殖するために日本の教会に協力しています」と答えます。国際的には、アジアアクセスは昨年A3という名前に変わりました。これは、A3の中で宣教師チームの名前をどうすべきかを明確にする絶好の機会でした。決定した名称は、A3

Missional Partners (A3.MP)です。この名称は、パートナーシップによる宣教というチームの焦点を明確にするものです。また、アジアアクセス・ジャパンとの関係も明確になります。

現在、23人の宣教師が関東、宮城、山形で奉仕しています。それぞれが地元の教会とパートナーシップを組み、地元のネットワークにつながろうとしています。歴史的には北米からの宣教師が中心でしたが、昨年は台湾から初の宣教師を迎えました。今年は3月にフィリピンから最初の宣教師が来る予定で、年末にはオーストラリアからも宣教師が来る可能性があります。神様がチームを人数的にも、より多文化的なグループへと成長させておられるのを見るのはとてもワクワクします。

4月には、宣教師チームのメンバー数名とアジアアクセス・ジャパンの何人かが兵庫県で会合を開き、今後の派遣戦略について話し合う予定です。アジアアクセス・ジャパンの働きを励まし、効果的な働きができる宣教師をどこにどのように配置するのか、神様が明確に導いてくださるようにお祈りください。アジアアクセス・ジャパンとパートナーシップを結べることを嬉しく思います。

## ⑤トルコ大地震震災支援

2023年2月にトルコ東部にて大地震が発生し、皆様からの尊いご支援を受けて5月に大友幸証師（塩釜聖書バプテスト教会牧師）と諸藤栄一師（九州キリスト災害支援センタースタッフ、有明バイブルチャーチ協力牧師）と播ディレクターでトルコの被災地へ遣わされました。義援金をお渡しし、現地の働き人に日本での震災支援の経験を分かち合い、関係を構築する機会となりました。

そして2023年10月にトルコ震災支援にあたっている6名の牧師を日本へご招待し、震災から12年経つ東北、6年経つ熊本へお連れすることで、トルコの震災支援の中長期の視点を持つ一助になることを願って企画させていただきました。

トルコにはトルコプロテスタント連盟(Tek)が震災以前から機能しており、この震災によって Tek の傘の下で、タビタという震災支援部門が設立されました。そのタビタのリーダーシップを担う以下の先生方が来日していただきました。

(来日者) アリ& ペルビン・カルカンドレン(Tek 代表)、ベドリ・ペケル(タビタ代表)、ベダット・オゼル(多分 Tek 南東部代表)、チョ・ウンソク(ベダット夫人、韓国籍)、アフメット・ギュベネール(ディヤルバクルの牧師)

10月14-23日までの10日間、福島、宮城、福岡、熊本と訪問し、各地で震災支援に携わっている牧師や働き人との懇談のとき、祈りのときを持ち、参加して下さったトルコの牧師たちはそれぞれに得るものがあつたとのことでした。

福島県では、福島第一聖書バプテスト教会を訪問し、現会堂で礼拝を献げ、震災からの経緯の話をお聞きし、次の日には、震災前の会堂まで出向いて行って、12年経ちそこで新たに神様が町の再建の中心地に教会が建てられていたことに感動を覚えておられました。

宮城県では、宮城宣教ネットワークの皆さんが集まってくださり、東北の経験を分かち合ってください、またトルコの被災の経験を分かち合う中で、深いところで理解し合える交わりを経験しました。

福岡では九キ災の理事の先生方、スタッフの方が集まってくださり、九キ災の運営のあり方など、実際的なことを多く質問され、Tekの運営について大きな示唆を受けたようでした。

熊本では、熊本宣教ネットワークの皆さんが集まってくださり、熊本地震の経験を分かち合い、トルコ地震の経験を分かち合い、最後にお互いのために祈り合うところに、聖霊の豊かな慰めが注が

れることを感じました。主日礼拝は熊本のいくつかの教会の礼拝でご奉仕して下さり、良い交わりの時となりました。

最後に東京に戻り、参加された先生方から感想や学んだことをお聞きしましたが、「こんな離れた国に、自分たちのことを深く理解してくれる人がいたことに感動した」と分かち合ってくださいました。

このプロジェクトで、トルコ地震のために献げられた献金はすべて用いられ、トルコ震災基金は終了となりました。皆様からの尊いご支援に心から感謝いたします。

今後は、今回得ることができた絆をもとに、震災支援から宣教協力として、新たに日本からトルコ宣教に貢献していく可能性を祈りつつ実現していく予定です。



## ⑥カバレッジビジョンプロジェクト

日本伝道会議に掲げられたテーマは「終わりから始まる宣教協力」ですが、この宣教の終わりについて、リックウォーレン牧師が代表を務めるフィニシングザタスク (FTT運動) では、教会が誕生してから2000年の記念の年である2033年までに、聖書がすべての言語に届けられること、すべての民族に信者が生み出され、教会が生み出されることを明確なゴールとして運動を進めています。

アジアアクセス・ジャパンとしては、当面の宣教のゴールとして、世界の巨大な未伝部族である Japanese が未伝でなくなるために、人口の2%が信者となることと、日本のすべての市町村に教会が生み出されていくことをゴールとして提唱してきました。そのために教会が教会を生み出し続けていく教会増殖運動が起こされることを願って今日まで仕えてきております。

日本においては、1/3の市町村に教会が存在しておらず、その地域に住む人々は福音にアクセスする機会が皆無です。既存教会がどこへ福音を携えて出ていく必要があるのか、また教会が未設置だとし

でも、だれがその市町村にエンゲージして取り組み始めているのかを明確にするサイトがあれば、教団教派を超え、地域を越え、国を越えて宣教協力が促進されるのではないかと考え作成したものが、カバレッジプロジェクトというサイトです。→サイトはこちらのQRコードか「カバレッジプロジェクト」で検索してください。



こちらは、播ディレクターもメンバーとしてJCE7のプロジェクトとしてJCE8まで取り組み続けていくこととなります。

今後、各県のコーディネーターをお願いして、各県で生み出された家の教会のような、クリスチャン年鑑に上がってこないデータも拾い上げ、実際に主が起こされているエクレシアが可視化されれば、見方が変わっていくのではと思います。

日本の現状は、過疎化に伴い地方教会が消滅しています。しかし、私たちが委ねられている福音の力はこのようなものではないと信じます。日本の諸教会が未伝地に宣教の働きが始まることを祈り始めること、協力して出ていくこと、そこに主が備えておられる平安の子と出会えるように導かれることを期待します。

ぜひカバレッジプロジェクトのビジョンに共鳴される方は、ご一報ください。こちらから出向いて行って共に祈るときを持たせていただきたいと思います。

## ⑦アジアアクセス・ジャパン大会2023の報告

2023年11月27-29日まで油山シャローム教会を会場に、アジアアクセス・ジャパン大会2023が開催されました。日本の各地から、海外からも参加者が与えられ、オンライン参加者も含めて120名ほどの方と共に、日本宣教のこれからについて祈り考え合う時が与えられました。

テーマは、 $\pi\acute{\alpha}\nu\tau\epsilon\alpha\ \tau\grave{\epsilon}\alpha\ \xi\theta\upsilon\upsilon\eta$ 、「あらゆる国民を弟子としなさい」ということで、JCE7で分かち合われた祈りをもとに、これからの日本宣教の希望と実際の取り組みが分かち合われました。最初にJCE7大会実行委員長であられ、アジアアクセス・ジャパン理事長の小平牧生師から、JCE7の恵みの分かち合いと備えられた結び目としてもっと日本の教会が繋がっていく重要性が分かち合

われました。次にFTT運動の推進者である、アンカンヒ師からインドでの未伝部族への教会増殖の実際が分かち合われ、それを受けて5月に教会指導者研修生でインド宣教に行くように導かれました。

1日目の夜の集会では、会場教会の牧師である横田法路師から、熊本地震の震災支援を通して教えられたことの分かち合いと、弟子として行くことの重要性について、改めて教えられていることが分かち合われました。

二日目の最初に、熊本ハーベスト教会牧師の中村陽志師からは、信仰のバトンを渡していく大切さが分かち合われ、長らく日本宣教を牽引してきてくださった先生方が、これからの日本宣教を担っていく若手牧師に按手して祈る時がもたれました。

クライストコミュニティー主任牧師の大橋謙一師と恵泉キリスト教会代表牧師の大喜多正洋師からは、教会を生み出す教会として歩んで来られた中から見えて来たことが分かち合われました。その中で人を育てて派遣していくことの葛藤と恵みが分かち合われました。

九州でなされている宣教の希望として、震災後に地域教会の牧師が協働して教会未設置市町村へ宣教に出ていく取り組みが報告されました。平安の子を探す取り組みを教会がない町で行う中で、宣教の可能性を感じているとのことでした。

分科会では、アデアロバート宣教師が宣教師との協働の可能性を考えました。菅原亮師と諸藤栄一師は未伝地に教会を生み出す取り組みのケーススタディから他の地域での展開の可能性をディスカッションしました。中山有太師はゼロの教会開拓の現実と恵みについて正直に分かち合ってください、開拓に取り組む参加者からは大きな慰めと励ましを受けたようでした。アンカンヒ師は世界宣教の達成について分かち合われ、共通の宣教のゴールと同じ情報、マップ、リソースを使い、みんなで手分けして福音を満たしていく実践が分かち合われました。大橋謙一師と大喜多正洋師は親教会になる大切さについて分かち合われ、バルナバの大切さ、派遣したあとの子教会との関わりのお勘所などを分かち合ってくださいました。

最終日は永井信義師から、ヨハネ21章から「網は破れなかった」と題してメッセージが分かち合われました。今までに経験したことないほどの大漁だとしても、ネットワークを築くことで大収穫を得ていくことができると力強く分かち合ってくださいました。

大会全体を通して、JCE7で分かち合われた、「終わりから始める宣教協力」の理解が深まり、教団教派の在り方が問い直されている今、収穫を意識した宣教ネットワークを形成し、弟子を生み出し遣わしていくことが、これからの日本宣教の鍵であると確信させられました。

※大会のセッション、分科会の動画リソース視聴ご希望の方は、QRコードの申し込みフォームにて御申し込みください。なお、アーカイブはアジアアクセス・ジャパンへ自由献金をして頂いた方にお送り致します。ご理解のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



## ⑧宗教法人運営現地化

宗教法人アジアアクセスは、1966年に宗教法人を取得してから、以後数十年間に亘って、米国の宗教法人の日本支部のような形で運営されてきました。しかし、そのような植民地的宣教のあり方から脱却していくべく、2014年に米国理事会と日本の理事会で合同理事会を開催し、2020年をターゲットにこれらの法人を現地化していく方向性を確認しました。それから時間をかけながらアジアアクセス・ジャパンの理事会の刷新、宗教法人の代表役員、責任役員会の交代、小手指事務所移転などに取り組んで参りました。

そして、2023年10月から以下のような体制で宗教法人アジアアクセスとして歩むことになりました。

代表役員：小平牧生

責任役員；滝田新二、高澤健、黄金井尚美、大友幸証、秦真道果、アデアロバート、ソネンバーグジェフリー、ウィルソンメリージョー、酒匂一己

スタッフ；播義也、鈴木光、斎藤溜惟

また、埼玉県所沢市榎町にある小手指事務所に関しては、売却を進め事務所機能を埼玉県戸田市に移転することになりました。4月からアジアアクセスジャパンの事務所は埼玉県戸田市上戸田3丁目26-5となります。電話番号は変わりますので後日お知らせします。

アジアアクセス・ジャパンは、2010年にリーダーシップのリニューアルに取り組んで参りました。2011年から播義也師がアシスタントディレクターに就任し、川崎廣師、高澤健師と交代したのち、播師が2017年からナショナルディレクターに就任しました。

研修のあり方もU30牧師研修をスタートし、2020年からはJCGI研修から教会指導者研修と変えて来ました。理事長も有賀喜一先生から小平牧生先生へ交代され、理事会メンバーも40代の先生や女性の先生に加わっていただくよう取り組んで参りました。そして、宗教法人の変更登記を持って、一連のリーダーシップリニューアル計画は終了することになります。

今後の10年間では、アジアアクセス・ジャパンとしてアジアへの貢献が期待されております。私たちが通ってきた歩みを、アジアの他の国がこれから通ろうとしています。そこへお仕えしつつ、日本の福音化のために、備えられた結び目として用いられることを願っております。今後ともご支援の程、よろしくお願い致します。

## 会計報告

2023/1/1～2023/12/31

(収入)21,699,767円

- ・一般献金 2,885,681円  
(個人、教会からの献金)
- ・特定献金 7,313,732円  
(教会指導者研修、トルコ指定献金等)
- ・A3支援金 11,500,354円  
(業務委託料、U30・教会指導者研修支援等)

(支出)16,910,542円

- ・活動費 11,890,542円  
(活動費、通信費、消耗品費他)
- ・業務委託費、外部献金 5,020,000円

皆様の尊いお捧げものに、心より感謝申し上げます。

## アジアアクセス・ジャパン レポート 2024年4月号

発行：アジアアクセス・ジャパン

E-Mail：info@asianaccess.or.jp

公式HP：www.asianaccess.or.jp

ゆうちょ銀行振替 00100-8-160549

アジアアクセス・ジャパン